

令和4年度 学校評価書 (計画段階・実施段階)

福岡県立春日高等学校

53

自己評価

学校運営計画(4月)

評価  
(総合)

A

学校運営方針		新しい時代を担う人間として、徳育・知育・体育の調和を図り、豊かな人格を涵養するとともに、自ら学び、個性を伸ばし、心身ともにたくましく、社会の発展に寄与する人間を育成する。			A	
昨年度の成果と課題		年度重点目標		具体的目標		
コロナ禍でも円滑な授業ができるようZOOMなどを活用し全職員が一丸となって取り組んだ。また、コロナ禍をチャンスと捉え、生徒自ら主体的に考えた新しいかたちでの学校行事(代替含む)の実施やICTを活用したキャリア教育の充実を図ることができた。 今年度は、スクールポリシーの体现のため、新学習指導要領理念の実現、関係機関との連携をさらに深め、新しい学校文化の構築に努める。		○重点目標 (1)「春日五常」を柱にした総合的な教育実践 (2) 高みにチャレンジする志を持ちつづけ、社会に貢献する生徒の育成 (3) 文武両道(インプット・アウトプットの相乗効果)の力が発揮できる生徒支援 (4) 家庭・地域・同窓会と連携した信頼される学校づくり (5) 同僚性・協働性を備えた魅力的な教師集団による次世代の育成		(1) 新学習指導要領の全面実施による新しい指導と評価の改善及びそれともなう課外・模試等の在り方の研究		
				(2) 行事を通じた主体性の育成		
				(3) 社会参加のためのキャリア教育の推進		
				(4) 個に応じた多様な進路実現へ向けた支援		
				(5) ICT活用による授業や校務の改善		
				(6) 第5学区の公立高校としての存在意義の再構築		
評価項目	具体的目標	具体的方策	評価(3月)	次年度の主な課題		
教務部	教務課	生徒の進路希望や学習状況に応じた教育課程・教務規定・教務内規を検討する。	C	B	行事予定の年度途中での変更が多く、月間行事予定の提示が遅くなることがあった。早めに次年度行事予定を全職員に提示し、熟考した上で作成し、年度途中での行事変更を最小にしていきたい。 時間割変更の教務課職員の負担が大きかった。次年度は事前に分かっている出張・年休について可能な限り各自で時間割変更をしていただき、調整を教務課で行うようにしたい。 SEの成績処理の負担が大きく、成績大表などが期限までに出力できないことが多くあった。全職員に期限内に正確に入力していただくように、より分かりやすいマニュアル作成に努める。	
		教育環境を整備し、学習支援体制を強化する。	時間割の作成・変更・運用を丁寧に、日々の授業実践を支える。			A
			情報管理課と連携して、SchoolEngineの円滑な運用に努める。			B
			毎月の行事予定を教員に早めに提示し、計画的な指導を支援する。			B
			「Kプロ」の時間を軸に、キャリア課や各学年との連携を図り、生徒の進路意識を高める。			B
			成績通知をとおして、生徒の自信や向上心を刺激し、自主的学習態度を育成する。			B
	入試広報課	生徒の学力向上における指導の充実を図るとともに、生徒のチャレンジ精神を育成する。	委員会活動を活用し、生徒の自主的な学び、積極的な行動力、広い視野の獲得を支援する。	B	B	課発足初年度で巧く行かないことも多かった。各セクションが反省事項を解り易く資料に残し、次年度に同じ轍を踏まないことが肝心である。 一部の発行物を過剰に余らせてしまった。必要部数を精査し、ロスを最小限に抑えたい。 11月の学校訪問2回は中学校職員・本校職員双方から反対意見が出た。1学期に1回、11月に1回のパターンに戻す方向で検討したい。 学校紹介ビデオは毎年編集が必要。令和5年度からは諸部活動に
		生徒の生活習慣や実態を把握し、学習習慣の定着を図る。	成績不振の生徒の情報を学校全体で共有し、担任・教科担当・部活動顧問などにより支援する。 学年・教科と連携して考査前の特別補講を実施し、生徒が自ら学習に向かう態度を醸成する。	A		
			学年と連携してクラスシーにより生徒の学習時間を把握し、生徒個人の学習習慣の改善を促す。	B		
			新規発足部署としてその業務の在り方を適宜検討し、次年度に繋げる。	B		
			他セクションとの連携を密にし、業務分担の境界を明確化し、遺漏や遅延を未然に防ぐ。	B		
			今年度の反省点を明文化し、解り易い資料として校務用サーバ内に残す。	B		
企画課	本校の広報活動を一層活性化させる。	特色化選抜の今年度実施を前提に、その在り方について早期から分析・検討を進める。	B	A	感染症対策のため、本年度も実施できなかった行事がいくつかあった。次年度以降実施された場合、最初から企画しなければならぬことが予想されるので、実績をしっかりと確認しながら、現状にあった行事運営を企画していきたい。 防災避難訓練時、グラウンド側の階段利用時に混雑が見られた。防災訓練時、多目的ホール側階段の利用など要項の洗い直しを行う。 次年度以降円滑に引き継げるよう、起案文書等の一括管理を徹底する。	
	学校環境の整備に努め、職員が働きやすく、生徒が学びに集中できる環境を整える。	年2~3回の入学者選抜1つ1つについて、教務部長と相談しながら実施細目など諸文書を速やかに作成する。	B			
		志願者のデータを蓄積し、次年度以降の入学者選抜の参考資料として提供する。	B			
		学校案内パンフレットや「春日の風」など、出版物の内容やその提供先を一層充実させる。	A			
		体験入学や進路相談事業など、中学生と対面する行事を円滑に実施する。	A			
		中学校PTAの本校訪問や本校職員の中学校訪問など、関係各所との往来を滞りなく取り仕切る。	B			
画	生徒が主体的に活動できる式典や諸行事の企画・運営を行う。	学校行事の企画調整を確実にし、年間行事予定の管理を年度途中においても確実に行う。	A	A	各種奨学金募集をメールやClassiを通じて確実に周知し、担任を通じて円滑に手続きが行えるようにする。 各種掲示物や案内文書の連絡を円滑に行い、学校内外での生徒の活動を活性化させる。	
		諸行事や式典における、生徒の自発的な運営を目指し、主体的に学校運営に関与させる。	B			
		防災避難訓練において、地震や火災、豪雨などの多様な自然災害を想定した訓練を企画する。	A			
		PTA主催行事に、全職員で支援し協力する。特にPTA総会やPTA講演会の実施方法を工夫する。	B			
	PTAや同窓会との連携を深め、両者の活動を全面的に支援し、本校発展に寄与する。	同窓会と連携を図りながら、学校の活性化に向けて協力体制を整える。また、同窓会総会の実施方法においても工夫する。	B			

評価項目	具体的目標	具体的方策	評価(3月)			次年度の主な課題	
生徒部	生 徒 課	教師の率先垂範により、「笑顔、挨拶、時間厳守」など凡事徹底を図る。それにより生徒に自主的な姿勢及び態度、感染症対策を徹底した行動を身に付けさせ規範意識を育む。	B	A	A	「笑顔、挨拶、時間厳守」が徹底できていない。特に時間厳守については、授業、学校行事、クラス経営、部活動を通して全教員で意識を高めて、自主的に行動できる生徒を育成する。 生徒会活動、学校行事、部活動については、感染症対策を徹底しながら素晴らしい成果をあげた。次年度、更なる発展をさせる。 時代に合わせた校則の見直しが必要である。生徒会を中心に生徒の意見を集約して新しい校則をつくる環境を整える。 今年度は登下校時の自転車事故が大幅に増加してしまった。交通安全委員会の活動を充実させ、生徒主体で交通安全の意識を高めるための活動を継続的に行う。 一人一台タブレットが配置されたため、他分掌と連携しながら学校行事等における活用方法を確立する。	
		学校行事やホームルーム活動の充実・活性化を図る中で、その目的や意義を理解させ、企画・運営に取り組ませることで、チームワークやコミュニケーション能力を育む。	A				
		生徒会執行部と各専門委員会、各部活動、各クラスを機能的に連動させることで、生徒会活動の活性化を図る。積極的に活動内容の広報を中学校や地域に行くことで帰属意識を高める。	A				
		学校行事等の企画・運営を積極的に生徒に行わせ、感染症対策を徹底した上で新たなものを作り出す企画力・計画力・実行力・調整力と協調性を養い、その中で、自ら創造する喜びを体験させる。	A				
	部	部活動の充実・活性化を図り、加入率85%以上を目指すとともに、高みにチャレンジする精神を涵養し、心の指導を充実させることで本校発展の核となる春日生を育成する。	A				
		学校生活アンケートをオンラインで実施することで生徒の声が届きやすい環境を作る。二者面談や教員間の情報共有、保健課との連携を通して、いじめ撲滅や生徒のつまずき、不安への早期対応に努める。	B				
	健康課	交通安全教育の工夫と徹底を図り、自転車通学生のマナーを向上させるとともに、交通安全委員会を立ち上げ、生徒が主体的に行動する体制を構築する。非行防止・防犯教育・自己防衛教育を諸機関と連携して計画的に実施し、自他の安全確保と自己防衛力を高める。	B	B	A		保健指導を適切に行い、健康問題への理解と関心を高め、将来にわたって自ら積極的に解決していく自主・実践的な態度を育成する。
		生徒が安全・安心な学校生活を送ることができるよう、状況に応じて新型コロナウイルス等感染症の予防・対策を行う。健康診断・健康観察等とおとし、生徒自らが心身の健康管理に注意し、健康的な生活習慣・態度を養うことができるように指導する。	B				
		学校行事・ホームルーム活動・生徒会活動・部活動において、健康管理等の保健指導や安全指導を保健委員会等の生徒が主体となって情報発信をし、適宜指導する。	B				
		保健室・学年会・生徒サポート委員会を通して、特別支援教育コーディネーターを中心にスクールカウンセラー・スクールソーシャルワーカー・訪問相談員等の外部機関との連携を高め、カウンセリングの活用を中心とした支援体制の充実を図り心の健康維持・増進に努める。	A				
客室委員会の更なる活性化を進め、毎日の清掃活動の充実を図ると共にゴミの減量化を目指し、全校生徒の環境衛生・美化意識の高揚を目指す		A					
掃除に対する啓蒙活動を充実させることにより、美化意識の高揚と環境衛生活動の推進を図り、環境美化に取り組む。		A					
ガイダンス課	進路データ処理の簡素化・マニュアル化を推進し、進路データの有効活用を広げる。	A	A	A	昨年度からの課題、現状、アンケート結果(生徒、教員)を踏まえ、課外やセミナーの科目選択制での実施(1、2年)、模試等の精査、模試監督業務の卒業生への委託など年度途中ながら大幅な変更を行った。生徒や教員の現状に沿う形で運営ができたことや働き方改革を進められたという成果もあれば、方針が不明確で教員の共通認識をはかることができていない部分や例年通りで行っているが改善の必要がある部分が散在しているので整理し、より効果的に生徒のガイダンス力を高められるように運営していきたい。 進路のしおり、ガイダンス室の利用、進路情報等の提示についても工夫したい。		
	進路検討会、模試分析会等の企画・立案をし、その内容を充実させることで教職員のガイダンス力の高揚をはかる。	A					
	進路関係の行書や課外・模試の充実を図り、生徒の進学意識を高め、学力の向上を図るとともに、主体的に学習する態度を養う。	B					
	1年生では、「探究基礎」「企業探究」「SDGs探究」を通して、探究の基礎知識(プロセス)を学び、探究の基礎・基本を固めさせる。コース選択を視野に入れつつ、様々な立場の方々から情報を取り入れ、将来の夢と学問や社会とのつながり、世界や地域の課題を知ることができるよう指導する。	A					
	2年生では、「課題探究」を通して、SDGsの視点を取り入れ身の周りから世界や地域、社会の課題を探究する力と課題を発見し、解決の具体的な方法を提案・発表できる生徒を育成する。またプレゼン力の向上を図る。	A					
	3年生では、「自己探究」を通して、生徒の進路実現に向けてガイダンス課と協力し、生徒の適正な労働観を育成するとともに、目標を最後まで諦めず自己実現のための高志をもち、心身ともに逞しい生徒を育成する。	A					
	外部組織(春日市や九州大学、企業等)との連携を充実させ、地域とより密接な事業を推進し、生徒の進路意識を高めるとともに自己の在り方、生き方や考え方を育む。	B					
	春日学術研究会(K.I.A.)に所属する生徒を増やし、活動を今まで以上に充実させ、学びの意欲を喚起する。	B					
	英語(A.E.)コースと理数(N.S.E.)コースでのきめ細やかな指導を行い、活動内容の更なる充実を図る。	A					
	外部キャリア形成事業や資格・検定試験に積極的に参加させ、その結果を学内生徒に還元させる。	B					
研 修 課	「指導と評価の一体化」に関する授業改善を推進する。	B	B	A	「指導と評価の一体化」については外部講師を招喚し、よりよい形の研修ができた。今後、更に改良するために各教科で出た課題を共有する機会を設けた。 ICT活用は、他部署と連携した校内研修の実施や、複数の外部研修の案内を行ったことで、意識の向上に資することはできたが、活用技能については教員間で差がある状態である。相互授業参観や授業アンケートを上手く絡めながら、授業改善の機会を提供したい。		
	校外での連携を促進させる。	A					
	研修機会の充実を図る。	A					
	若年者育成とともに、教育実習生の指導の充実を図ることで、後継者育成と学校活性化に寄与する。	A					
	生徒の一人一台端末設置後の利用法を研究し、移行期におけるBYODを管理を徹底する。	B					
	メール配信とホームページ更新を一層活性化させ、校内での情報共有を校外への広報活動に資する。	A					
	職員間で行った作業を回るとともに、情報交換を密にノウハウを共有する。	B					
	学校ポータルサイト利用と並行してExcelによる機器の賃借管理を用い、一層の利便性向上を図る。	B					
	使い方の難しい機材については、親切に解説を加えながら使用法マニュアルを随時改善する。	A					
	Word、Excel等の主だったソフトウェアの使い方について、職員の要望に応じて親切に助言を行う。	B					
研 修 部	各業務に関連するICTについて環境整備を図る。	B	B	A	iPadについては今年度複数台購入していただいたので、次年度は利便性が大幅に向上することが期待できるが、その他の機器についても絶対数が不足している面が見受けられるので、適宜事務室と連携して、補充ならびに修理などの整備にあたりたい。 Chromebookの本格的な運用は、課として研究活動を継続的にを行い、研修課と連携し学習効果が高く効果的な利用法を模索し提起していきたい。		
	模聴覚教材の管理を徹底する。	A					
	教職員のICT技術向上を図る。	A					
	研修課と連携して適宜職員研修を行い、ICT技術の向上を図りつ機器の利活用を進める。	B					
	各学年のクラス・教科、及び分掌との連携を図り、探究的・協働的学習の場としての図書館利用を推進する。	A					
	学年に応じた読書を推進する。	A					
	図書館行事や利用者への図書館サービス活動を通して、図書委員会によりよい図書館運営について考え、実践させていく。	B					
	図書館行事や利用者への図書館サービス活動を通して、図書委員会によりよい図書館運営について考え、実践させていく。	B					
	読書週間行事等、図書館行事に一般生徒の参加を促し、読書に対する意欲を喚起する。	B					
	進学・就職などの進路実現や人格的成長に関わる資料を充実させ、来館者の支援に努める。	A					
図 書 課	図書館管理システム(e-slip)や図書館だよりなどの広報活動を通して、蔵書の周知、活用を図る。	B	B	A	本年度、「朝日けんさくくん」を導入したが、利用が少なかったため、周知の工夫を行いたい。 図書委員の役員については、早期の掘り起こしが必要である。		
	「朝日けんさくくん」運用開始に伴い、全職員・生徒への周知、活用を図る。	B					
		B					
		B					

評価項目	具体的目標	具体的方策	評価(3月)	次年度の主な課題		
学部 1年生	「春日五常」の精神を実践する生徒の育成	共生する他者との良好な関係を構築できる素地を育成するため、校内外のルール・マナーを遵守させる。	B	A	学習に取り組む姿勢に差が出てきているため、成績状況別集会を開催するなどして、生徒の状況に応じた声掛けを行い、受験に向けた意識を早い段階で持たせる。 他者理解の重要性や、他者の痛みを想像する力を育み、生徒全員が安心・安全に学校生活を送れるように、公共の場でのルール・マナーの遵守を意識を向上させる。 計画的に行動できるように、先の見通しをできるだけ明示し、段取り力を付けさせる。また、面談等を通して生徒個別の日常生活内の困り感に寄り添う。 職員間の業務の偏りを無くし、全員で業務に取り組む姿勢を作る。	
		社会の多様性を理解させ、公共心や思いやりの心を実践できる生徒を育てる。	A			
		他を思いやり、コミュニケーションを円滑にし、協働の精神を育む。	A			
		5分前行動を心がけ、集団の中で生活する者として責任感を持たせる。	A			
		清掃を丁寧に、学校への感謝の心、公共心を育む。	A			
		出席率99%、皆勤率55%以上を目指し、己に打ち克つ精神を育む。	B			
	何事にも全力で取り組み、活動の意義を自ら見出す生徒の育成	進路情報を数多く提供し、未知の領域へチャレンジする志を育む。	B	A		
		将来を具体的に思い描き、その実現のために行動する生徒の育成	B			
		予習・授業・復習のサイクルを確立させ、学習に取り組む基本的な姿勢を育む。	A			
		キャリア教育を通し、目の前の事象を批判的に考える思考力を鍛える。	B			
		豊かな感性(「春日高校五常」)を育み、自立・自律を身につけたたくましい生徒の育成	B			A
		礼儀、時間厳守、ルール・マナーの遵守、清掃活動などを通して、感謝の心や公共心を育む。	B			
学習や学校行事を通して協働的な活動を行い、素直な心や思いやりの心を育む。	A					
部活動や課題探究を通して向上心を持ち、克己の心を育む。	A					
予習・復習など計画的な学習を徹底させ、自ら考える力を養う。	B					
定期考査や模擬試験を活用し、自己の課題を分析し、解決する力を育む。	B					
探究的な学習を行い、主体的で深い学びを実践し、高い目標に挑戦する生徒の育成	個に応じた学習支援を行い、主体的に学習する姿勢を育む。	B	B			
	Kプロの活動を通して好奇心を育み、探究的な学習を身につけさせる。	A				
	Kプロの探究活動を通して、課題解決に向けて他者と学びながら取り組む力を育む。	A				
	大学の学術研究や研修プログラムに参加させ、高い目標や向学心を育む。	B				
	部活動、春日学術研究会、その他校外の課外活動へ積極的に取り組ませ、新たな刺激を与えることで柔軟な思考を養う。	A				
	生徒主体の行事や活動を取り入れ、個々の生徒の能力を発揮させ、自信を持たせる。	A				
幅広く校内外の体験的な活動を行い、他者と協働することができる生徒の育成	春日祭や大運動会を通して、リーダーシップ・フォローシップを育成させる。	B	A			
	出席率の向上(99%以上)と皆勤率50%以上を目指し、心身ともにたくましい生徒を増やす。	B				
	気持ちのよい挨拶、時間厳守、礼法を身につけさせ、丁寧な掃除を徹底させる。	A				
	日々の授業、行事、部活動に真摯に取り組ませ、何事にも責任を持って行動する生徒を増やす。	A				
	ICT機器を効果的に活用し、積極的に授業改善と指導法の工夫に取り組む。	B				
	生徒一人一人の個に応じた適切な質と量の課題や親切的学習支援・教科指導・進路指導を行う。	B				
第一志望への進路実現に向けて、高い志をもって自主的に挑戦する粘り強い生徒の育成	朝課外・土曜活用・模擬試験等を活用させ、自ら課題を発見し、解決する姿勢・力を身につけさせる。	B	B			
	進路情報の共有を図り、多様な入試制度に対応できる体制をつくる。	B				
	第一志望を最後まで粘り強く挑戦するための指導体制を、Team春日(学年を中心とした教職員・家庭)で協働し、連携して確立する。(離園大30名、園立大200名以上の合格者)	B				
	リーダーシップを発揮し、春日祭・大運動会や部活動において、コロナ等の困難にも負けずに最後までやり抜く力を育成する。	A				
	フォローアップを発揮し、授業・行事・部活動において、互いに認め合い、高め合う良好な人間関係を築かせる。	A				
	行事や部活動において、生徒による企画や運営などの協働活動を通し、個々の生徒の活躍の場を増やすとともに、後輩たちを育成する力をつける。	A				
「春日高校五常」の実践により、社会の発展に寄与する自立した人間の育成	「春日高校五常」の実践により、生徒たちが大きく成長している。しかし、欠席や遅刻が多少あり、粘り強さを育成することができなかった。 学校行事ではリーダーシップ・フォローシップを十分発揮し、後輩たちをよく引っ張ってくれた。また、部活動でも素晴らしい実績を残してくれた。しかし、引退後や大運動会後の切り替えが少しうまくいかなかったのが反省である。 小論文指導・面接指導等の組織的運用ができていないため、ガイダンス課とキャリア課を中心に学校全体で組織的に指導する体制が必要である。 Team43期最後の最後まで進路実現のために、諦めず努力をした。	A	A			
	部活動の取り組みに関して、自主的で自律的な活動ができるよう学年として支援する。	A				
	これまでの課題探究で学んだことをまとめ、入試や卒業後の学業に活かす。	A				
	部活動の取り組みに関して、自主的で自律的な活動ができるよう学年として支援する。	A				
	部活動の取り組みに関して、自主的で自律的な活動ができるよう学年として支援する。	A				
	部活動の取り組みに関して、自主的で自律的な活動ができるよう学年として支援する。	A				

いじめ	生徒の状況	本校の生徒は、誠実かつ真摯に日々の学校生活に取り組んでいるが、その一方で、相手と上手くコミュニケーションを図ることを苦手とする生徒も散見される。SNS等によるいじめの陰湿化は児童・生徒のみならず社会的に蔓延しているが、特に近年問題になっている部活動内におけるいじめは、学年・クラスを越えて事態が深刻化するため、よりいっそうの注意が求められる。そこで、日頃の生徒観察、コミュニケーションや家庭との連携を通して生徒・保護者等・教職員の相互信頼関係を築き、いじめの未然防止、早期発見、早期対応、早期解決に資するために以下のような具体的な対応をとるとする。	評価	次年度の主な課題
撲滅に 係る 取 り 組 み	1	早期発見のために日頃の生徒観察や月一回のアンケート調査等の分析を十分に行い、気になる状況がある場合は関係部署による会議等を開いて速やかに情報共有を回り、生徒への対応、保護者への説明、観察依頼等を行うことで早期の対応・解決を図る。	A	いじめと疑われる事案については、積極的にいじめを認知し、確実な初期対応をとることが必要である。特に、対応については「いじめ防止対策委員会」等により組織的に行い、未然防止、早期対応を図るものとする。  いじめに関する職員研修会は、年度の早いうちに行い、学校としての方針や共通認識のもと組織的に行うこととする。
	2	定期的にいじめ問題対策委員会、生徒サポート委員会、担任会等を行い、情報共有を図る。その際、いじめに関する観察結果や今後心配される事柄などを検討し、生徒観察の強化や臨時の個人面談を実施するなどの方策をもっていじめの防止等を心がける。	A	
	3	定期または臨時に個人面談を実施し、生徒の状況を観察するとともに、友人関係の変化等常に新しい情報を聞き取り、いじめ防止に関する情報収集の一助とする。	A	
	4	各学期の終わりには保護者面談(年2回)を実施し、長期休暇中の生活について注意を促すとともに、いじめに関する保護者アンケートや家庭におけるいじめ発見のきっかけ(家庭用いじめチェックリスト)等について説明し、気になることは学校(担任)に連絡をさせていただくよう依頼する。家庭でのいじめ防止に関する意識の啓発と、学校との速やかな連携により早期発見、早期対応、早期解決を目指す。	A	
	5	教職員に対しては、年度の早い時期にいじめ撲滅のための研修会を計画的に行い、早期発見のための生徒観察のポイントや早期の対応のあり方などを研修する。また、ネットによる誹謗中傷からいじめや自殺に発展した事例などを研究し、このような事態が発生しないための教育活動のあり方や発生した場合の考え方と対応についても十分に研修を行う。	A	
	6	授業中等に生徒の気になる言動等があった場合は、授業を中断して問題確認・解決に向けての積極的な指導を展開し、教職員の、いじめ撲滅に対する強い姿勢を伝えるとともに、関係部署に対して速やかな情報共有を図り、問題解決に向けての方策等を討議する。	A	
	7	いじめに対する教職員のあり方については、被害者の視点に立つことを大前提とし、いじめを絶対に許さないことを適宜生徒に繰り返して伝え、学校としてのいじめ防止や撲滅に向かう意志を確実に伝える。	A	
	8	「学校いじめ防止基本方針」を研修等に活用し、共通認識を図った上で生徒の状況把握を含めた生徒観察を行い、学校としていじめを許さない姿勢を常に生徒に伝える。	A	

自己評価及び学校関係者評価を踏まえた今後の改善策